忍者の里　交流深く
伊賀甲賀手裏剣打ち大会

伊賀上野城本丸広場で3月24日(土)、三重県伊賀市と甲賀市の手裏剣打ち対決が行われました。

これは伊賀市で同日開幕した「伊賀上野NINJA（にんじゃ）フェスタ」のオープニングイベントとして同市が企画したもので、伊賀市から甲賀市に呼びかけがあり実現したものです。

勝負では、中嶋市長、今岡伊賀市長をそれぞれ頭領に公募のあった「くノ一」を含む7人ずつが忍者姿で登場。一人ずつ対戦し、十字手裏剣を5メートル先の的めがけて交互に3回ずつ打ち、得点を競いました。

対決は終盤までもつれる互角の戦いぶりとなり、甲賀市は延長戦の末に惜しくも敗れました。両市長は互いの健闘をたたえ合い固い握手を交わし、今後も交流を続け、連携を深めることを約束しました。

▲手裏剣対決を終え今後の交流を誓いあう今岡伊賀市長（右）と中嶋市長（左）

「朝」、ごはんを食べよう！
～あじさいネットワークフォーラムより～

まちかど特派員◎杉山　祐子

ずらりと並んだお惣菜の数々。「これ、どうやって作るんですか？」と、小さな子を抱いたママたち。「簡単ですよ。」

――試食を各自のお皿に取り分けてもらいながら、こんな会話があちこちから聞こえました。

これは３月８日㈭に開催された「あじさいネットワークフォーラム」の昼食風景です。「あじさいネットワーク」とは、甲賀地域で農業に携わる女性たちで組織されたグループです。年に一度、消費者と交流し地産地消を推進するためにフォーラムを開催しています。

今年のテーマは「朝ごはん」。朝ごはんに関するパネル展示や特産品の販売、事例発表、シイタケの植菌体験など、盛りだくさんの内容で賑わいました。管理栄養士・渡邉さおりさんの講演では、「現代の食生活は、油を摂り過ぎています。健康を考えるうえでは、ビタミンよりもカロリーコントロールをする方が大切。カロリーが低い和食は、日本人にとって理想的な食事です。」と説明。「朝食にこそ、栄養バランスもいい『ごはん+みそ汁』をお薦めします。」と話されました。

食料自給率が40％と主要先進国の中で最低の日本。日本中のみんなが、ごはんを１日あたり『ふたくちずつ多く食べれば』日本の自給率は１％も上がるそうです。また、地元の食材を使うことは、消費者にとって新鮮で安心なものであると同時に、地域の農業を支えることにもつながっています。生産する人も消費する人も元気な甲賀をめざし、「地元でとれるお米や野菜を食べよう」と思えたフォーラムでした。

▲「ごはんがどんどん進みそう。」お総菜のヒントももらいました。

開通前の第二名神を歩く
文化の薫る天平の都
ウォーキング・ツアー

文化の薫る天平の都ウォーキング・ツアーが３月25日㈰、開催されました。

このウォーキングは、信楽高原鐵道㈱が主催、開通前の第二名神（西日本高速道路㈱大津工事事務所協力）を歩けるとあって、あいにくの雨にもかかわらず市内外や県外から約80人が参加しました。

参加者は、信楽高原鐵道の紫香楽宮跡駅を起終点とし、しがらきの郷・歴史ボランティアガイドの皆さんとともに約９キロの道のりをウォーキング。第二名神では、信楽の景色を眼下に建設中の道路を歩き、イロハモミジの記念植樹もしました。また、宮町遺跡や紫香楽宮跡では学芸員から詳しい説明を受けたり、出土品の見学をしたりと参加者はツアーを満喫していました。

▲第二名神では参加者全員で記念植樹

▲紫香楽宮跡で学芸員の説明を受ける参加者

体験から新たな発見が
まなび・たいけんフェスタ
2007.inこうか

かふか生涯学習館で３月25日(日)、「まなび・たいけんフェスタ２００７．ｉｎこうか」が開催されました。

当日は、市内外から５００名を超える多くの方が来場、さまざまな体験を通して新たな発見や参加者同士の活発な交流が図られました。

特に、地震体験では、ちょうど同じ日に能登半島地震が発生したこともあり、参加者の関心も非常に高く、大地震に備えての心構えなどを熱心に学んでいました。

▲地震体験車で震度７の恐ろしさを体験

▲各種サークルなどの活動の成果を発表する場となったフェスタ

▲パフォーマンスショーを熱心に見る子どもたち

▶ボランティアスタッフに教わりながら親子で楽器を手作り